

1. 講習会のタイムスケジュール、講師

<東京会場：1日目> 9月7日（月）土木学会講堂、A会議室

9:30～9:40 (10分)	開会挨拶	トンネル工学委員会	委員長	芥川 真一
9:40～10:00 (20分)	「2026 年度版 トンネル標準示方書 共通編」について	共通編小委員会	委員長	木村 定雄
10:00～10:20 (20分)	「2026 年度版 トンネル標準示方書 山岳工法」全般について	山岳工法小委員会	委員長	佐原 圭介
	「第1編 総論」について	第1分科会	副主査	山崎 哲也
10:20～10:50 (30分)	「第2編 計画および調査」について	第2分科会	副主査	浦越 拓野
10:50～11:00 (10分)	休憩			
11:00～12:00 (60分)	「第3編 設計」について	第3分科会	主査	岡野 法之
12:00～13:00 (60分)	昼食・休憩			
13:00～14:00 (60分)	「第4編 施工」について	第4分科会	主査	金藤 和慶
14:00～15:00 (50分)	「第6編 補助工法」について 「第9編 TBM工法」について 「第10編 矢板工法」について 「第11編 立坑および斜坑」について	第4分科会	委員	日向 哲朗
15:00～15:15 (15分)	休憩			
15:15～15:45 (30分)	「第7編 特殊地山のトンネル」について 「第8編 都市部山岳工法」について	第5分科会	副主査 幹事	谷 卓也 野城 一栄
15:45～16:20 (35分)	「第5編 施工管理」について	第6分科会	副主査	磯谷 篤実
16:20～16:25 (5分)	閉会挨拶	山岳工法小委員会	副委員長	山崎 哲也

<東京会場：2日目> 9月8日（火）土木学会講堂、A会議室

9:30～ 9:40 (10分)	開会挨拶	トンネル工学委員会	委員長	芥川 真一
9:40～ 9:50 (10分)	「2026 年度版 トンネル標準示方書 共通編・開削工法」全般について	開削工法小委員会	委員長	伊藤 聡
9:50～10:05 (15分)	「第1編 総論」について	総論分科会	主査	小島 謙一
10:05～10:55 (50分)	「第2編 トンネルの設計」について	トンネルの設計分科会	主査	内田 雅洋
10:55～11:35 (40分)	「第3編 仮設構造物の設計」について	仮設構造物の設計分科会	主査	永井 政伸
11:35～11:55 (20分)	「第4編 施工」について	施工分科会	主査	鈴木 章悦
11:55～13:00 (65分)	昼食・休憩			

13:00～13:20 (20 分)	「2026 年度版 2016 年度版 トンネル標準示方書 共通編」について	共通編小委員会	委員長 木村 定雄
13:20～13:25 (5 分)	休憩		
13:25～13:35 (10 分)	「2016 年度版 トンネル標準示方書 シールド工法編」全般について	シールド工法小委員会	委員長 川上 直之
13:35～14:05 (30 分)	「第 1 編 総論」について	シールド工法小委員会 総論分科会	幹事 鹿島 竜之介
14:05～14:30 (25 分)	「第 2 編 覆工 第 1～5 章」について	シールド工法小委員会 覆工分科会	主査 岩波 基
14:30～14:40 (10 分)	休憩		
14:40～15:00 (20 分)	「第 2 編 覆工 第 6 章」について	シールド工法小委員会 覆工分科会	幹事 仲山 貴司
15:00～15:30 (30 分)	「第 2 編 覆工 第 7～12 章」について	シールド工法小委員会 覆工分科会	副主査 千代 啓三
15:30～15:40 (10 分)	休憩		
15:40～16:10 (30 分)	「第 3 編 シールド」について	シールド工法小委員会 シールド分科会	主査 白子 慎介
16:10～16:55 (45 分)	「第 4 編 施工」について	シールド工法小委員会 施工分科会	主査 小俣 洋士
16:55～17:00 (5 分)	閉会挨拶	開削工法小委員会	副委員長 木谷 努

<大阪会場：1 日目> 9 月 16 日（水）建設交流会館 8 階 グリーンホール

9:30～9:40 (10 分)	開会挨拶	トンネル工学委員会	委員長 芥川 真一
9:40～10:00 (20 分)	「2026 年度版 トンネル標準示方書 共通編」について	共通編小委員会	委員長 木村 定雄
10:00～10:20 (20 分)	「2026 年度版 トンネル標準示方書 山岳工法」全般について	山岳工法小委員会	委員長 佐原 圭介
10:20～10:50 (30 分)	「第 1 編 総論」について	第 1 分科会	副主査 山崎 哲也
10:50～11:00 (10 分)	「第 2 編 計画および調査」について	第 2 分科会	主査 鈴木 俊雄
11:00～12:00 (60 分)	「第 3 編 設計」について	第 3 分科会	主査 岡野 法之
12:00～13:00 (60 分)	昼食・休憩		
13:00～14:00 (60 分)	「第 4 編 施工」について	第 4 分科会	主査 金藤 和慶
14:00～15:00 (50 分)	「第 6 編 補助工法」について 「第 9 編 TBM 工法」について 「第 10 編 矢板工法」について 「第 11 編 立坑および斜坑」について	第 4 分科会	委員 日向 哲朗
15:00～15:15 (15 分)	休憩		

15:15～15:45 (30分)	「第7編 特殊地山のトンネル」について 「第8編 都市部山岳工法」について	第5分科会 幹事 委員	橘 直毅 柏木 亮
15:45～16:20 (35分)	「第5編 施工管理」について	第6分科会 主査	日下 敦
16:20～16:25 (5分)	閉会挨拶	山岳工法小委員会 副委員長	山崎 哲也

<大阪会場：2日目> 9月17日（木）建設交流会館 8階 グリーンホール

9:30～ 9:40 (10分)	開会挨拶	トンネル工学委員会 委員長	芥川 真一
9:40～ 9:50 (10分)	「2026年度版 トンネル標準示方書 共通編・開削工法」全般について	開削工法小委員会 委員長	伊藤 聡
9:50～10:05 (15分)	「第1編 総論」について	総論分科会 主査	小島 謙一
10:05～10:55 (50分)	「第2編 トンネルの設計」について	トンネルの設計分科会 主査	内田 雅洋
10:55～11:35 (40分)	「第3編 仮設構造物の設計」について	仮設構造物の設計分科会 主査	永井 政伸
11:35～11:55 (20分)	「第4編 施工」について	施工分科会 主査	鈴木 章悦
11:55～13:00 (65分)	昼食・休憩		
13:00～13:20 (20分)	「2026 年度版 2016 年度版 トンネル標準示方書 共通編」について	共通編小委員会 委員長	木村 定雄
13:20～13:25 (5分)	休憩		
13:25～13:35 (10分)	「2016年度版 トンネル標準示方書 シールド工法編」全般について	シールド工法小委員会 委員長	川上 直之
13:35～14:05 (30分)	「第1編 総論」について	シールド工法小委員会 総論分科会 主査	砂金 伸治
14:05～14:30 (25分)	「第2編 覆工 第1～5章」について	シールド工法小委員会 覆工分科会 主査	岩波 基
14:30～14:40 (10分)	休憩		
14:40～15:00 (20分)	「第2編 覆工 第6章」について	シールド工法小委員会 覆工分科会 限界状態による性能照査 WG 主査	本田 諭
15:00～15:30 (30分)	「第2編 覆工 第7～12章」について	シールド工法小委員会 覆工分科会 幹事	仲山 貴司
15:30～15:40 (10分)	休憩		
15:40～16:10 (30分)	「第3編 シールド」について	シールド工法小委員会 シールド分科会 主査	白子 慎介
16:10～16:55 (45分)	「第4編 施工」について	シールド工法小委員会 施工分科会 副主査	小坂 琢郎
16:55～17:00 (5分)	閉会挨拶	シールド工法小委員会 副委員長	吉本 正浩

2. トンネル標準示方書の改訂要旨

示方書目次構成における改訂要旨

編	改訂要旨
共通編	前回改訂の『[2016 年制定] トンネル標準示方書 [共通編]・同解説』では、ISO 規格による構造設計の体系の国際標準化の動き、ならびに「土木・建築の設計の基本(国土交通省・2002)」の発行を受けて、トンネル構造物の性能照査型の設計体系を [共通編] として新設し解説した。今回改訂の『[2026 年制定] トンネル標準示方書 [共通編]・同解説』では、「土木構造物共通示方書 (土木学会 2023 年)」に示される共通事項を配慮し、三工法の設計施工の実態を踏まえた、トンネル構造物の性能評価の原則を示し解説した。
山岳工法編	近年、土木構造物の設計基準においては要求性能を設定し、これを満足することを照査する性能規定による設計が一般的となっており、前回改訂の『[2016 年制定] トンネル標準示方書 [共通編]・同解説』において、性能規定の考え方が記載されたが、地山の安定を前提とした山岳工法では地山の性能を直接照査することは難しいため『[2016 年制定] トンネル標準示方書 [山岳工法編]・同解説』では性能規定の詳細な記載は見送られていた。その後、山岳トンネルにおいても設計基準に性能照査型設計体系を導入する事例があり、今回改訂『[2026 年制定] トンネル標準示方書 [山岳工法編]・同解説』の第 3 編 設計に「性能照査による設計」の章を設け、要求性能のほか諸条件の設定についても事例を含めて記載した。 また、供用期間中のトンネルで盤ぶくれ事象が散見されるようになり、インバートの役割や機能を明確にする必要性が高まって来たことを受けて、支保工の一部として地山の安定を担う「インバート支保工」など、インバートに関する用語の定義を明確化し再整理した。 さらに工事における地質、地盤の不確実性から生じる地質、地盤リスクを適切に評価し、リスク要因を十分把握したうえで、最適なリスク対応を行う地質・地盤リスクマネジメントの概念を記載した。
シールド工法編	『[2016 年制定] トンネル標準示方書 [シールド工法編]・同解説』の発刊以降 10 年が経過し、シールド工法は、道路トンネル、鉄道トンネルおよびライフラインなどへの適用によってトンネルの大型化、長距離化および大深度化による技術革新が進んでいる。一方で、トンネルの長寿命化のため新設時から維持管理を配慮することの重要性も高まっている。さらに、近年の建設工事では性能規定に基づく設計や ICT を導入した施工の生産性向上が求められている。これらの技術や知見を標準示方書に取込む必要性が生じてくるとともに、近年発生した社会的影響の大きいシールドトンネルの陥没事故等を受け、シールド工法の安全性や信頼性の向上のため、標準示方書の充実が求められている。 前回の改訂までの覆工の設計では、性能規定への準備として、従来の許容応力度設計法に加え、限界状態設計法や大規模地震に対する耐震設計の検討成果を取り入れるとともに、覆工の耐久性向上のための内容を記載してきた。今回の改訂『[2026 年制定] トンネル標準示方書 [シールド工法編]・同解説』にあたっては、覆工の設計を性能規定へ移行するために、「覆工」編および「限界状態設計法」編の 2 編を統合し、内容の充実を図った。 さらに、シールドトンネル工事の陥没事故等を踏まえて、公表された安全性の向上や技術的に改善を要する事項、維持管理への考慮すべき事項等の内容を可能な限り反映させている。
開削工法編	『[2016 年制定] トンネル標準示方書 [開削工法編]・同解説』において、トンネル躯体の設計法を許容応力度設計法から限界状態設計法へ移行するとともに、兵庫県南部地震による被害を評価した新しい耐震設計への移行を図った。平成 28 年改訂 (2016 年制定版) では、トンネル躯体の設計法を性能照査型の新たな設計体系へ再編成するとともに、東北地方太平洋沖地震における被災状況の反映、建設後の維持管理に配慮して新設時に考慮すべき内容の充実を図った。 近年においては、トンネル躯体の設計法は更なる合理化や地震をはじめとする偶発作用への対応を背景として発展を続けているとともに、建設後の維持管理との連携にも配慮した設計から施工までを一貫させた品質管理システムの本格運用が開始されている。 今回の『[2026 年制定] トンネル標準示方書 [開削工法編]・同解説』では、前回から今回の改訂までに導入および更新されて標準的となっている技術に対する反映とともに、利用者の使いやすさを考慮した改訂を行った。